

# ESMPRO/JMSS

---

内部統制対応ガイド

## はしがき

本ドキュメントは、ESMPRO/JMSS の SOX 法対応に関する機能と操作方法について説明しています。ESMPRO/JMSS 全般に関する機能および操作方法につきましては、ユーザーズマニュアルをご覧ください。

本ドキュメントの構成は以下の通りです

	タイトル	内容
1	概要	ESMPRO/JMSS の SOX 法対応の概要について
2	ログファイル	ログ出力対象操作、出力されるイベントログについて
3	操作ログの出力動作	操作ログの出力動作のカスタマイズについて
4	ログの出力対象となる操作	ログの出力対象となる操作、出力されるログの内容について
	付録 1	コマンドリファレンス

## 目 次

1. 概要 .....	1
1.1 ESM/PRO/JMSS S O X法対応とは.....	1
2. ログファイルについて .....	3
2.1 操作ログファイルについて .....	3
2.2 操作ログと JMSS 各種データの関連付けについて .....	6
2.2.1 ジョブ監視情報と関連付けるには .....	6
2.2.2 スケジュールデータと関連付けるには.....	7
2.2.3 イベント起動ジョブ情報と関連付けるには.....	7
2.2.4 カレンダー情報と関連付けるには .....	8
3. 操作ログ出力のカスタマイズについて .....	9
3.1 ログの出力を開始/停止するには .....	10
3.2 ログファイルの切り替えモードを変更するには.....	10
3.3 ログファイルの切り替え時刻を変更するには.....	10
3.4 ログファイルの最大サイズを変更するには.....	10
3.5 ログファイルの出力先ディレクトリを変更するには.....	11
3.6 ログファイルの書き込みリトライ間隔を変更するには.....	11
3.7 ログファイルの書き込みリトライ回数を変更するには.....	11
3.8 リトライオーバー時のサービス動作を変更するには.....	11
3.9 現在の設定内容を確認するには .....	12
3.10 オンラインヘルプを表示するには .....	12
4. ログの出力対象となる操作 .....	13
4.1 JLook を使用して行う操作 .....	13
4.2 JSchedule を使用して行う操作 .....	14
4.3 JMenu を使用して行う操作 .....	19
4.4 JEnv を使用して行う操作 .....	19
4.5 コマンドを使用して行う操作 .....	23
4.6 サービス開始、停止 .....	23
4.7 EventManager の操作.....	24
付録1 コマンドリファレンス .....	25

# 1. 概要

## 1.1 ESMPRO/JMSS S O X 法対応とは

米国 S O X 法および日本版企業改革法（日本版 S O X 法）では、I T システム利用者は I T システムを利用して本番環境に対して行った変更履歴を内部監査資料の一部として保管する義務があります。

本対応では、J M S S を利用して行った変更履歴ログをテキストファイルに保存する機能をサポートしました。

ログ出力の有効/無効の設定ができるほか、ログ保管場所やログの切り替え方法について設定することが可能です。

**注意:**JMenu を利用したメニューファイルに対する変更および JBuild を利用したジョブネットファイルに対する変更はファイルシステム上のファイル更新の扱いとなります。  
Windows システムのファイル更新ログを用いて、変更履歴としてください。



## 2. ログファイルについて

今回の対応によって新たに出力されるようになったログは操作ログです。  
操作ログには JMSS を利用して行った操作が記録されます。  
ログを出力するかどうかの設定は JEnv で行います。

### 2.1 操作ログファイルについて

操作ログは、JMSS を利用して誰がいつ何をどうしたかを CSV 形式で出力します。  
操作ログと操作対象となった情報との関連付けにつきましては、3.2 節以降で説明します。  
ログファイルは以下のような形式です。

```
2006/04/05 10:18:58.214(JST),USER-B,162,ジョブ投入,0   ・・・例A
2006/04/05 14:47:25.007(JST),USER-A,QUE-A,稼働マシン追加,
2006/04/05 14:47:25.023(JST),USER-A,QUE-A,ジョブキュー設定,状態(閉⇒開)
2006/04/05 14:47:25.038(JST),USER-B,QUE-A,ジョブキュー設定,ジョブキュー多重度(0⇒100)
2006/04/05 14:47:25.054(JST),USER-A,QUE-A,ジョブキュー設定,リトライ回数(0⇒5)
2006/04/05 14:47:25.070(JST),USER-A,QUE-A,ジョブキュー設定,リトライ間隔(0⇒1)
2006/04/05 14:47:25.148(JST),USER-B,QUE-A,ジョブキュー設定,ユーザ(グループ)追加
(*Everyone)
2006/04/05 14:47:56.411(JST),USER-A,QUE-A,ジョブキュー追加,
2006/04/05 14:47:56.411(JST),USER-A,QUE-A,ジョブキュー設定,状態(閉⇒開)
```

スプレッドシートに読みこんだ例

①	②	③	④	⑤
2006/04/05 10:18:58.214(JST)	USER-B	162	ジョブ投入	0
2006/04/05 14:47:25.007(JST)	USER-A	QUE-A	稼働マシン追加	
2006/04/05 14:47:25.023(JST)	USER-A	QUE-A	ジョブキュー設定	状態(閉⇒開)
2006/04/05 14:47:25.038(JST)	USER-B	QUE-A	ジョブキュー設定	ジョブキュー多重度(0⇒100)
2006/04/05 14:47:25.054(JST)	USER-A	QUE-A	ジョブキュー設定	リトライ回数(0⇒5)
2006/04/05 14:47:25.070(JST)	USER-A	QUE-A	ジョブキュー設定	リトライ間隔(0⇒1)
2006/04/05 14:47:25.148(JST)	USER-B	QUE-A	ジョブキュー設定	ユーザ(グループ)追加(*Everyone)
2006/04/05 14:47:56.411(JST)	USER-A	QUE-A	ジョブキュー追加	
2006/04/05 14:47:56.411(JST)	USER-A	QUE-A	ジョブキュー設定	状態(閉⇒開)

ログの 1 レコードはカンマによって区切られた以下の 5 つの項目で構成されています。

NO	名前	説明
①	日時	日時【YYYY/MM/DD HH:MI:SS. mmm (ZZZ) 形式】 ZZZ はタイムゾーン
②	ユーザ名	操作を行ったユーザ名
③	操作対象	操作対象 例) ジョブ No、キュー名等
④	操作内容	操作内容 例) ジョブ投入、スケジュール設定等
⑤	オプション	補足情報 例) 親ジョブ No、設定内容の詳細等

上の例 A は、「USER-B」がジョブ No「162」のジョブを投入したことを表します。

ログ出力の対象となる操作一覧および出力されるログの内容については、  
「5. ログの出力対象となる操作」を参照して下さい。

●ログファイル名について

ログファイルは以下の命名ルールに従って作成されます。

**[実コンピュータ名]+ "-" +[識別子]+[yyyymmdd]+[nn]+.csv**

[実コンピュータ名]	ログを出力する実コンピュータ名 クラスタ構成の場合であっても、実コンピュータ名が使用されます。
[識別子]	ログ出力要求元モジュール識別子（1桁） JLook サービス：L、JSchedule サービス：S EventManager サービス：E
[yyyymmdd]	作成日
[nn]	シーケンス番号（1～99：作成日の中で連番）

例）コンピュータ名「SERVER1」上で、JLook サービスによって、2006/01/17 に作成された最初のログファイル名  
SERVER1-L2006011701.csv

**補足：識別子について**

ログファイルは、行った操作によって2種類のファイルに分けて出力されます。それらは、[識別子]によって区別されます。

識別子	
L	ジョブ投入や JLook サービスの設定に関するログ
S	スケジュール設定や JSchedule サービスの設定に関するログ
E	定義ファイルの実行やボックス即時実行に関するログ

●ログの切り替えについて

ログファイルは1つのファイルのサイズが大きくなりすぎないように自動的に切り替えが行われます。

切り替え方法は以下の3つの中から選択することができます。

日付のみで切り替える
サイズのみで切り替える
日付とサイズで切り替える

1. 日付で切り替える

指定した時刻になるとログファイルが切り替わります。（規定値は深夜0時）  
ログ出力がない日は、ログファイルは作成されません。

2. サイズで切り替える

指定したサイズに達したらログファイルが切り替わります。  
切り替えの際、現在のログファイルが切り替え時刻以降に作成されたログファイルであった場合は、切り替え前のログファイルのシーケンス番号を1カウントアップしたログファイル名に切り替わります。  
ただしシーケンス番号が99であった場合は切り替えが行われません。  
現在のログファイルが切り替え時刻以前に作成されたログファイルであった場合は、本日の日付でシーケンス番号が1のログファイル名に切り替わります。

3. 日付とサイズで切り替える

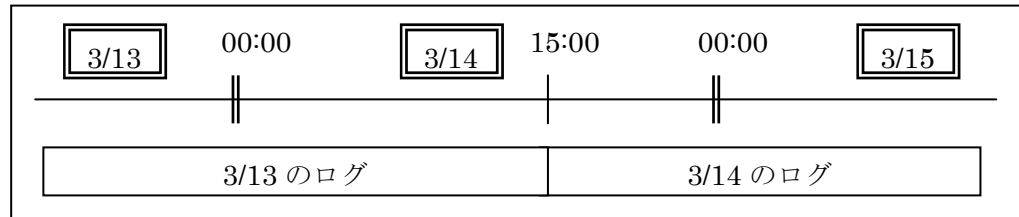
指定されたサイズに達したらログファイルが切り替わります。  
「2. サイズで切り替える」と異なる点は、指定したサイズを越えていない場合であっても、指定された切り替え時刻になるとログが切り替わる点です。

**補足：ログの切り替え時刻について**

ログファイルを日付で切り替えるモードを選択した場合に、  
ログファイルの切り替え時刻を指定できます。  
この場合、その時刻を過ぎて初めてログの書き込み要求があった場合に、  
ログファイルが切り替わります。

例えば、切り替え時刻が「15:00」の場合

下図の通り、3/14 の 15:00 にログが切り替わります



**補足：ログのサイズについて**

ログファイルをサイズで切り替えるモードを選択した場合に、  
ログファイルの最大サイズを指定できます。  
この場合、指定されたサイズを超えて初めてログの書き込み要求があった場合に、  
ログファイルが切り替わります。

●サービスの停止について

操作ログの採取を厳密に行う場合、操作ログの損失を避けるために  
操作ログの書き込みができなかった場合サービスを停止させることができます。

サービスは以下の場合に停止させることができます。

ログの書き込みが指定された回数失敗した場合
-----------------------

ログファイルの作成またはオープンに失敗した場合
-------------------------

サービスを停止するかしないかは後述するコマンドで指定することができます。



## 2.2 操作ログと JMSS 各種データの関連付けについて

操作ログは JMSS を操作した履歴が記録されるため、投入したジョブ監視情報や登録したスケジュール情報等は、操作ログからは確認することができません。

そのため、各情報は JMSS が出力する各種データで確認する必要があります。

操作ログと各情報との関連付けは、操作ログに出力されるジョブ No やスケジュール ID をキーにして行います。

各情報別に関連付けの方法について説明します。

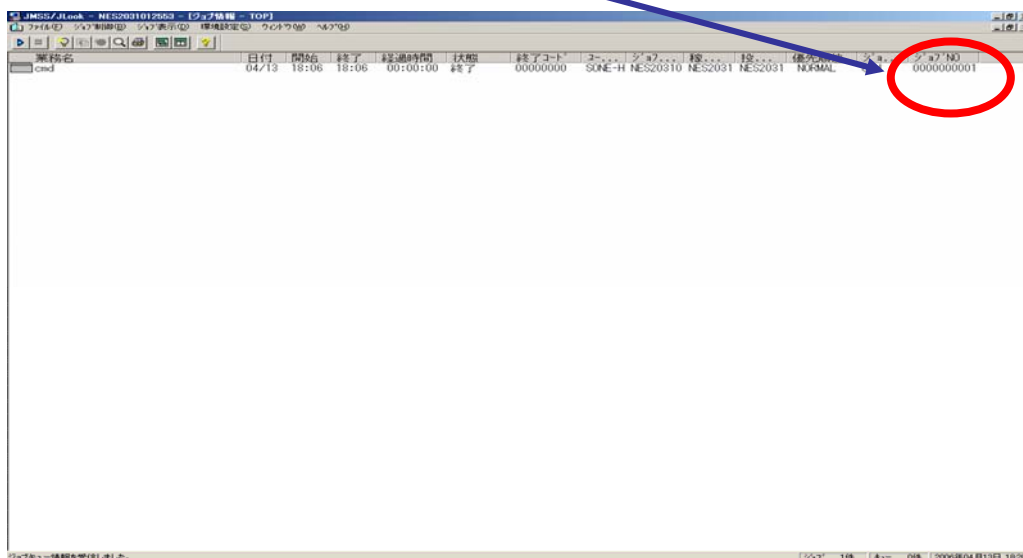
### 2.2.1 ジョブ監視情報と関連付けるには

操作ログとジョブ監視情報と関連付けするには、JLook クライアントを使用する方法とコマンドを使用する場合の 2 つの方法があります。

#### ●JLook クライアントを使用する場合

操作ログのジョブ No と JLook クライアントで表示されるジョブ No を関連付けて、ジョブ監視情報を参照します。

2006/04/13 18:06:16.067(JST),USR-A,1,ジョブ投入,0 JLOOK



注意：JLook の設定で、ジョブ No を表示するようにしてください。

#### ●JCsvLog コマンドを使用する場合

2006/04/13 18:06:16.067(JST),USR-A,1,ジョブ投入,0 JLOOK

##### ①CSV に出力します

```
C:\>JCsvLog c:\jlook.csv
```

##### ②操作ログのジョブ No と JCsvLog コマンドで出力されるジョブ No を関連付けて、ジョブ監視情報を参照します。

業務名,日付,開始,終了,経過時間,状態,終了コード,ユーザ名,ジョブキュー,稼働マシン,投入マシン,優先順位,ジョブ名,CPU 時間,user CPU,min MEM,max MEM,ジョブ NO  
"cmd","04/13","18:06","18:06","00:00:00","終了"  
,"00000000","USR-A","SV-1","SV-1","SV-1","NORMAL","cmd",140,44,2113,21,3,1

注意：ジョブ監視情報は、JEnv で指定されている件数に達すると上書きされてしまうため、本コマンドを使用して定期的にバックアップしてください。

## 2.2.2 スケジュールデータと関連付けるには

- JCsvSch コマンドを使用します

2006/04/13 19:15:22.810(JST),USR-A,cmd,スケジュールジョブ登録,(000000)2006/04/13 20:00 1

- ①CSV に出力します

```
C:\>JCsvSch /so c:\Schedule.csv
```

- ②操作ログのスケジュール ID と JCsvSch コマンドで出力される番号を関連付けて、スケジュールデータを参照します。

[Version=3.0]

番号,スケジュール,日付,時間,業務名,ジョブ名,パラメータ,ディレクトリ,ジョブキュー,開始日,終了日,ユーザ名,標準出力,優先順位,マシン名,振替,周期,標準出力ファイル名,標準出力モード,タイムアウト,±n 日設定,排他業務名,カレンダー名,カレンダーフラグ,通知条件,未起動時業務名,未起動時ジョブ名,未起動時パラメータ,未起動時ディレクトリ,未起動時ジョブキュー,未起動時優先順位,未起動時標準出力,未起動時標準出力ファイル名,未起動時標準出力モード,未起動時タイムアウト,振替実行オプション

"1",特定日,"2006/04/13","20:00","cmd","cmd","/c dir","",  
"SERVER1",,"USR-A","NO","NORMAL","SV-1","NO","NO",,""+0 日","",,"カレンダー",  
", "OR", "",,,,,,,,,, "1 回のみ",

## 2.2.3 イベント起動ジョブ情報と関連付けるには

- JCsvSch コマンドを使用します

2006/04/13 19:21:42.505(JST),USR-A,cmd,イベント起動ジョブ登録,LOOP 1

- ①CSV に出力します

```
C:\>JCsvSch /eo c:\Event.csv
```

- ②操作ログのイベント起動ジョブ No と JCsvSch コマンドで出力される番号を関連付けて、イベント起動ジョブ情報を参照します。

[Version=3.0]

番号,イベント ID,状態,業務名,ジョブ名,パラメータ,実行時ディレクトリ,ジョブキュー,開始日,終了日,優先順位,標準出力監視,標準出力ファイル名,標準出力モード,実行時間タイムアウト,排他業務名

"1",LOOP,"ON","cmd","cmd","/c dir","",,"SV-1","",,"NORMAL","NO","",,"",,""

## 2.2.4 カレンダー情報と関連付けるには

操作ログとカレンダー情報と関連付けするには、JSchedule クライアントを使用する方法とコマンドを使用する場合の2つの方法があります。

### ●JSchedule クライアントを使用する場合

操作ログのカレンダー名と JSchedule クライアントのカレンダー設定で表示されるカレンダー名を関連付けて、カレンダー情報を参照します。

2006/04/13 19:25:06.898(JST),USR(A,TEST,カレンダー登録,0 1 2



### ●JCsvSch コマンドを使用する場合

2006/04/13 19:25:06.898(JST),USR-A,TEST,カレンダー登録,0 1 2

#### ①CSV に出力します

```
C:\>JCsvSch /ho:"TEST" c:\Cal.csv
```

②操作ログのカレンダー名と JCsvSch コマンドで出力されるカレンダー名を関連付けて、カレンダー情報を参照します。

[Version=3.0]

カレンダー名:TEST

休止日振替:なし

種別,開始年,月日,終了年,曜日  
"不定期","2006","4/13","2006",

### 3. 操作ログ出力のカスタマイズについて

ログ出力動作の設定は「JEnv」または「JCtlSox」コマンドにて行います。

JEnv での操作については ESMPro/JMSS ユーザーズマニュアルで確認してください。

ここでは「JCtlSox」コマンドを使用した設定方法について説明します。

コマンドの詳細につきましては「付録1 コマンドリファレンス」を参照して下さい。

インストール直後のログ出力動作の設定値は以下の通りです。

NO	名前	説明
1	ログ出力の有無	ログを出力しない
2	ログファイル切り替えモード	日付とサイズで切り替える
3	ログファイル切り替え時刻	00:00 (深夜0時)
4	ログファイル最大サイズ	10 メガバイト
5	ログファイル保存先パス名	JMSS インストールディレクトリ¥SOX
6	ログファイル書き込みリトライ間隔	500 ミリ秒
7	ログファイル書き込みリトライ回数	10 回
8	リトライオーバー時のサービス動作	サービスを停止しない

それぞれの設定値の意味は以下の通りです。

NO	名前	説明
1	ログ出力の有無	ログを出力するかしないかを設定できます
2	ログファイル 切り替えモード	以下の3つモードがあります ・日付のみで切り換えます ・ログファイルサイズのみで切り換えます ・日付とサイズで切り換えます
3	ログファイル 切り替え時刻	ログを日付で切り替える場合、切り替える時刻を指定できます。
4	ログファイル 最大サイズ	ログをサイズで切り替える場合、サイズを指定できます。
5	ログファイル 保存先パス名	ログファイルの出力先ディレクトリを指定できます。
6	ログファイル 書き込みリトライ間隔	書き込みリトライ間隔を指定できます。
7	ログファイル 書き込みリトライ回数	ログファイルの書き込みが一時的に失敗した場合、再度書き込みを行いますが、その回数を指定できます。
8	リトライオーバー時の サービス動作	リトライ回数まで繰り返してもログが書き込めなかった場合、サービスを停止するかどうかを指定できます。 ・サービスを停止します ・サービスを停止しません

### 3.1 ログの出力を開始/停止するには

- ① ログの出力を開始する場合は、引数に ON を指定します。

```
C:\>JCtlsox ON  
ログ出力の有無：ログを出力します  
(省略)
```

- ② ログの出力を停止する場合は、引数に OFF を指定します。

```
C:\>JCtlsox OFF  
ログ出力の有無：ログを出力しません  
(省略)
```

### 3.2 ログファイルの切り替えモードを変更するには

- ① 日付のみで切り替える場合は、引数に mode day と指定します。

```
C:\>JCtlsox mode day  
(省略)  
ログファイル切り替えモード：日付のみで切り換えます  
(省略)
```

- ② サイズのみで切り替える場合は、引数に mode size と指定します。

```
C:\>JCtlsox mode size  
(省略)  
ログファイル切り替えモード：ログファイルサイズのみで切り換えます  
(省略)
```

- ③ 日付とサイズで切り替える場合は、引数に mode daysize と指定します。

```
C:\>JCtlsox mode daysize  
(省略)  
ログファイル切り替えモード：日付とサイズで切り換えます  
(省略)
```

### 3.3 ログファイルの切り替え時刻を変更するには

- 切り替え時刻を変更する場合は、ctime 時刻(HH:MM)と指定します。

```
C:\>JCtlsox ctime 22:00  
(省略)  
ログファイル切り替え時刻：22:00  
(省略)
```

### 3.4 ログファイルの最大サイズを変更するには

- 最大サイズを変更する場合は、size サイズ(メガバイト)と指定します。

```
C:\>JCtlsox size 10  
(省略)  
ログファイル最大サイズ：10 メガバイト  
(省略)
```

### 3.5 ログファイルの出力先ディレクトリを変更するには

ログファイルの出力ディレクトリを変更する場合は、dir パス名と指定します。

```
C:\>JCtlsox dir d:\  
(省略)  
ログファイル保存先パス名 : d:\  
(省略)
```

**注意：**出力先ディレクトリは、書き込み可能である必要があります。

### 3.6 ログファイルの書き込みリトライ間隔を変更するには

リトライ間隔を変更する場合は、interval リトライ間隔(ミリ秒)と指定します。

```
C:\>JCtlsox interval 300  
(省略)  
ログファイル書き込みリトライ間隔 : 300 ミリ秒  
(省略)
```

**注意：**大きな値を指定するとパフォーマンスに影響が出る可能性があります。

### 3.7 ログファイルの書き込みリトライ回数を変更するには

リトライ回数を変更する場合は、retry リトライ回数と指定します。

```
C:\>JCtlsox retry 20  
(省略)  
ログファイル書き込みリトライ回数 : 20回  
(省略)
```

**注意：**大きな値を指定するとパフォーマンスに影響が出る可能性があります。

### 3.8 リトライオーバー時のサービス動作を変更するには

①サービスを停止する場合は、option stop と指定します。

```
C:\>JCtlsox option stop  
(省略)  
リトライオーバー時のサービス動作 : サービスを停止します
```

②サービスを停止させずに処理を続行する場合は、option none と指定します。

```
C:\>JCtlsox option none  
(省略)  
リトライオーバー時のサービス動作 : サービスを停止しない
```

### 3.9 現在の設定内容を確認するには

引数なしで JCtlSox を実行することにより現在の設定内容が表示されます。

```
C:\>JCtlSox
ログ出力の有無：ログを出力します
ログファイル切り替えモード：日付とサイズで切り換えます
ログファイル切り替え時刻：17:30
ログファイル最大サイズ：22 メガバイト
ログファイル保存先パス名：c:\win32app\jms\sox\
ログファイル書き込みリトライ間隔：101 ミリ秒
ログファイル書き込みリトライ回数：40 回
リトライオーバー時のサービス動作：サービスを停止します
```

### 3.10 オンラインヘルプを表示するには

オンラインヘルプを表示する場合は、/?と指定します。

```
C:\>JCtlSox /?
SOX 法対応ログ環境情報を表示/設定します
使い方：JCtlSox[オプション][変更パラメータ種別 パラメータ]
          オプション
[/s サーバ] 環境を表示/変更したい JMSS サーバ名を指定します。
[変更パラメータ種別] 変更したパラメータの種別を指定します。
                  省略時には現在の環境情報が表示されます。

on          ログ出力の有無(ログを出力します)
off         ログ出力の有無(ログを出力しません)
mode        ログファイルの切り替えモード
ctime       ログファイル切り替え時刻
size        ログファイル最大サイズ
dir          ログファイル保存先パス名
interval    ログファイル書き込みリトライ間隔
retry       ログファイル書き込みリトライ回数
option      リトライオーバー時のサービス動作

パラメータ          設定したい値を指定します
mode    day：日付のみで切り換えます
        size：ログファイルのサイズのみで切り換えます
        daysize：日付とサイズで切り換えます
ctime    hh：mm
size     1_100(メガバイト)
dir      ディレクトリを指定
Interval 1-100(ミリ秒)
retry    1-100(回)
opinion  stop：サービスを停止します
        none：サービスを停止しません
```

## 4．ログの出力対象となる操作

ログの出力対象となる操作、出力先ログファイルの識別子、出力されるログの内容は以下の通りです。

### 4.1 JLook を使用して行う操作

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	ジョブの投入	L	ジョブ No	ジョブ投入	親ジョブ No JLook
2	ジョブの強制終了	L	ジョブ No	ジョブ強制終了	
3	ジョブキューの登録削除	L	ジョブ No	ジョブ登録削除	
4	ジョブキューの保留	L	ジョブ No	ジョブ保留	
5	ジョブキューの保留解除	L	ジョブ No	ジョブ保留解除	
6	ジョブキュー最優先	L	ジョブ No	ジョブ最優先	
7	異常終了したジョブから実行	L	ジョブ No	ジョブ投入	親ジョブ No JLook
8	異常終了した次のジョブから実行	L	ジョブ No	ジョブ投入	親ジョブ No JLook
9	ジョブネットの強制終了	L	ジョブ No	ジョブ強制終了	
10	ジョブネットの一時停止	L	ジョブ No	ジョブネット一時停止	
11	ジョブネットの再開	L	ジョブ No	ジョブネット再開	
12	ジョブネットの停止	L	ジョブ No	ジョブネット停止	
13	ジョブネットの継続	L	ジョブ No	ジョブネット継続	
14	排他解除(ジョブ詳細情報画面)	L	業務名	排他解除	



## 4.2 JSchedule を使用して行う操作

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	C S V形式の読み込み スケジュールデータ	S	ジョブ名	スケジュールジョブ登録	登録 No スケジュール ID (種別 時刻)
2	C S V形式の読み込み イベント起動データ	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ登録	イベント起動ジョブ ID イベント ID (登録時の値)
3	C S V形式の読み込み カレンダーデータ	S	カレンダー名	カレンダー登録	カレンダーID
4	スケジュールジョブの全削除	S	ジョブ No	スケジュールジョブ全削除	登録 No スケジュール ID (種別 時刻)
5	イベント起動ジョブの全削除	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ全削除	イベント起動ジョブ ID イベント ID (削除時の値)
6	スケジュールジョブの登録	S	ジョブ名	スケジュールジョブ登録	登録 No スケジュール ID (種別 時刻)
7	スケジュールジョブの変更 業務名の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 業務名 (変更前⇒変更後)
8	スケジュールジョブの変更 ジョブ名の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No ジョブ名 (変更前⇒変更後)
9	スケジュールジョブの変更 パラメータの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No パラメータ (変更前⇒変更後)
10	スケジュールジョブの変更 実行ディレクトリの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 実行ディレクトリ (変更前⇒変更後)
11	スケジュールジョブの変更 ジョブキュー名の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No ジョブキュー名 (変更前⇒変更後)
12	スケジュールジョブの変更 優先順位の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 優先順位 (変更前⇒変更後)
13	スケジュールジョブの変更 標準出力の監視の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 標準出力の監視 (変更前⇒変更後)
14	スケジュールジョブの変更 実行経過時間タイムアウトの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 実行経過時間タイムアウト (変更前⇒変更後)
15	スケジュールジョブの変更 スケジュール (時刻の登録)	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No スケジュール ID 登録(種別 時刻)

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
16	スケジュールジョブの変更 スケジュール ±n 日設定の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No スケジュール ID 変更(種別 時刻) ±n 日設定 (変更前⇒変更後)
17	スケジュールジョブの変更 スケジュール 時間周期の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No スケジュール ID 変更(種別 時刻) 時間周期 (変更前⇒変更後)
18	スケジュールジョブの変更 スケジュール (時刻の削除)	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No スケジュール ID 削除(種別 時刻)
19	スケジュールジョブの変更 期間設定の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 期間設定 (変更前⇒変更後)
20	スケジュールジョブの変更 休止日振替の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 休止日振替 (変更前⇒変更後)
21	スケジュールジョブの変更 同時に実行しない業務の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 排他業務 (変更前⇒変更後)
22	スケジュールジョブの変更 カレンダーの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No カレンダー (変更前⇒変更後)
23	スケジュールジョブの変更 カレンダー条件の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No カレンダー条件 (変更前⇒変更後)
24	スケジュールジョブの変更 通知条件の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 通知条件 (変更前⇒変更後)
25	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ (変更前⇒変更後)
26	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ 業務名の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ 業務名 (変更前⇒変更後)
27	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ ジョブ名の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ ジョブ名 (変更前⇒変更後)
28	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ パラメータの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ パラメータ (変更前⇒変更後)

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
29	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ 実行ディレクトリの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ 実行ディレクトリ (変更前⇒変更後)
30	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ ジョブキュー名の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ ジョブキュー名 (変更前⇒変更後)
31	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ 優先順位の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ 優先順位 (変更前⇒変更後)
32	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ 標準出力の監視の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ 標準出力の監視 (変更前⇒変更後)
33	スケジュールジョブの変更 未起動時実行ジョブ 実行経過時間タイムアウトの変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 未起動時実行ジョブ 実行経過時間タイムアウト (変更前⇒変更後)
34	スケジュールジョブの変更 振替重複実行指定の変更	S	ジョブ名	スケジュールジョブ変更	登録 No 振替重複実行指定 (変更前⇒変更後)
35	スケジュールジョブの一時変更 (即時実行)	S	ジョブ名	スケジュールジョブ即時実行	登録 No スケジュール ID (種別 時刻) (予定時刻) (実行時刻)
36	スケジュールジョブの一時変更 (取り消し)	S	ジョブ名	スケジュールジョブ取り消し	登録 No スケジュール ID (種別 時刻) (予定時刻) (取消時刻)
37	スケジュールジョブの一時変更 (日時変更)	S	ジョブ名	スケジュールジョブ日時変更	登録 No スケジュール ID (種別 時刻) (予定時刻) (変更時刻)
38	スケジュールジョブの削除	S	ジョブ名	スケジュールジョブ削除	登録 No スケジュール ID (種別 時刻)
39	カレンダーの登録	S	カレンダー名	カレンダー登録	カレンダー登録 No
40	カレンダーの変更 休日振替を休止日の変更	S	カレンダー名	カレンダー変更	カレンダー登録 No 休日振替を休止日 (変更前⇒変更後)

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
41	カレンダーの変更 祝日を休止日の変更	S	カレンダー名	カレンダー変更	カレンダー登録 No 祝日を休止日(変更前⇒変更後)
42	休止日の削除	S	カレンダー名	カレンダー変更	カレンダー登録 No 休止日削除(休止日の値)
43	休止日の登録	S	カレンダー名	カレンダー変更	カレンダー登録 No 休止日登録(休止日の値)
44	カレンダーの削除	S	カレンダー名	カレンダー削除	カレンダー登録 No
45	イベント起動ジョブの登録		ジョブ名	イベント起動ジョブ登録	イベント起動ジョブ ID イベント ID (登録時の値)
46	イベント起動ジョブの変更 業務名の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 業務名 (変更前⇒変更後)
47	イベント起動ジョブの変更 ジョブ名の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID ジョブ名 (変更前⇒変更後)
48	イベント起動ジョブの変更 パラメータの変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID パラメータ (変更前⇒変更後)
49	イベント起動ジョブの変更 実行ディレクトリの変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 実行ディレクトリ (変更前⇒変更後)
50	イベント起動ジョブの変更 ジョブキュー名の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID ジョブキュー名 (変更前⇒変更後)
51	イベント起動ジョブの変更 優先順位の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 優先順位 (変更前⇒変更後)
52	イベント起動ジョブの変更 標準出力の監視の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 標準出力の監視 (変更前⇒変更後)
53	イベント起動ジョブの変更 実行経過時間タイムアウトの変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 実行経過時間タイムアウト (変更前⇒変更後)
54	イベント起動ジョブの変更 イベント起動 ID の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID イベント ID (変更前⇒変更後)
55	イベント起動ジョブの変更 イベント起動の有効無効の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID イベント起動の有効 (変更前⇒変更後)
56	イベント起動ジョブの変更 期間設定の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 期間設定 (変更前⇒変更後)

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
57	イベント起動ジョブの変更 同時に実行しない業務の変更	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ変更	イベント起動ジョブ ID 排他業務 (変更前⇒変更後)
58	イベント起動ジョブの一時変更 (即時 実行)	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ即時実行	イベント起動ジョブ ID 実行日時(即時実行された日時)
59	イベント起動ジョブの削除	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ削除	イベント起動ジョブ ID イベント ID (削除時の値)
60	イベント起動ジョブの有効無効設定 (旗をダブルクリック)	S	ジョブ名	イベント起動ジョブ有効無効 設定	イベント起動ジョブ ID イベント起動の有効 (変更 前⇒変更後)

#### 4.3 JMenu を使用して行う操作

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	ユーザ情報設定	L	初期メニューファイル名	ユーザ情報設定（メニュー）	変更前メニューファイル名
2	業務運用メニューボタンからジョブの投入	L	ジョブ No	ジョブ投入	親ジョブ No、JMenu

#### 4.4 JEnv を使用して行う操作

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	ジョブキューの設定（詳細パネル） 状態の変更	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	状態（変更前⇒変更後）
2	ジョブキューの設定（詳細パネル） ジョブキュー多重度の変更	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	ジョブキュー多重度（変更前⇒変更後）
3	ジョブキューの設定（詳細パネル） ジョブキュー優先度の変更	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	ジョブキュー優先度（変更前⇒変更後）
4	ジョブキューの設定（詳細パネル） リトライ回数の変更	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	リトライ回数（変更前⇒変更後）
5	ジョブキューの設定（詳細パネル） リトライ間隔の変更	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	リトライ間隔（変更前⇒変更後）
6	ジョブキューの設定 （ジョブキューセキュリティパネル） ユーザまたはグループの追加	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	ユーザ(グループ)追加(ユーザ名またはグループ名)
7	ジョブキューの設定 （ジョブキューセキュリティパネル） ユーザまたはグループの削除	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	ユーザ(グループ)削除（ユーザ名）
8	ジョブキューの設定（関連付けパネル） 稼働マシンの所属変更	L	ジョブキュー名	ジョブキュー設定	所属稼働マシン（変更前⇒変更後）

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
9	ジョブ稼働マシンの設定（詳細タグ） マシン多重度の変更	L	稼働マシン名	稼働マシン設定	マシン多重度（変更前⇒変更後）
10	ジョブ稼働マシンの設定（詳細タグ） ユーザジョブキューの追加	L	ジョブキュー名	ジョブキュー追加	
11	ジョブ稼働マシンの設定（詳細タグ） ユーザジョブキューの削除	L	ジョブキュー名	ジョブキュー削除	
12	ジョブ稼働マシンの設定（詳細タグ） ジョブ稼働マシンの追加	L	稼働マシン名	稼働マシン追加	
13	ジョブ稼働マシンの設定（詳細タグ） ジョブ稼働マシンの名前の変更（削除後、登録）	L	稼働マシン名	稼働マシン削除	
14	JLook サービス環境の設定（設定 1 パネル） 最大監視ジョブ数の変更	L		JLook サービス環境設定	最大監視ジョブ件数（変更前⇒変更後）
15	JLook サービス環境の設定（設定 1 パネル） WS_EML ジョブの監視の変更	L		JLook サービス環境設定	WS_EML ジョブ監視（変更前⇒変更後）
16	JLook サービス環境の設定（設定 1 パネル） パフォーマンスデータ採取の変更	L		JLook サービス環境設定	パフォーマンスデータ採取（変更前⇒変更後）
17	JLook サービス環境の設定（設定 1 パネル） パフォーマンスデータ採取間隔の変更	L		JLook サービス環境設定	パフォーマンスデータ採取間隔（変更前⇒変更後）
18	JLook サービス環境の設定（設定 1 パネル） ログファイル出力ディレクトリの変更	L		JLook サービス環境設定	ログファイル出力ディレクトリ（変更前⇒変更後）
19	JLook サービス環境の設定（設定 1 パネル） 標準出力ファイル出力ディレクトリの変更	L		JLook サービス環境設定	標準出力ファイル作成ディレクトリ（変更前⇒変更後）
20	JLook サービス環境の設定（設定 2 パネル） ジョブ起動方式の変更	L		JLook サービス環境設定	ジョブ起動方式（変更前⇒変更後）
21	JLook サービス環境の設定（設定 2 パネル） 保留ジョブの自動起動設定の変更	L		JLook サービス環境設定	保留ジョブの自動起動設定（変更前⇒変更後）
22	JLook サービス環境の設定（設定 2 パネル） 稼働マシン状態チェック間隔の変更	L		JLook サービス環境設定	稼働マシン状態チェック間隔（変更前⇒変更後）

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
23	JLook サービス環境の設定（設定 2 パネル） 保留ジョブ保存期間の変更	L		JLook サービス環境設定	保留ジョブ保存期間（変更前⇒変更後）
24	JLook サービス環境の設定（設定 3 パネル） ログDB出力の変更	L		JLook サービス環境設定	ログDB出力（変更前⇒変更後）
25	JLook サービス環境の設定（設定 3 パネル） データソース名の変更	L		JLook サービス環境設定	データソース名（変更前⇒変更後）
26	JLook サービス環境の設定（設定 3 パネル） テーブル名の変更	L		JLook サービス環境設定	テーブル名（変更前⇒変更後）
27	JLook サービス環境の設定（設定 3 パネル） ユーザ名の変更	L		JLook サービス環境設定	ユーザ名（変更前⇒変更後）
28	JLook サービス環境の設定（設定 3 パネル） パスワードの変更	L		JLook サービス環境設定	パスワード（変更前⇒変更後）
29	JLook サービス環境の設定（設定 3 パネル） パフォーマンスカウンタ出力の変更	L		JLook サービス環境設定	パフォーマンスカウンタ出力（変更前⇒変更後）
30	JSchedule サービス環境の設定 スケジュール保存期間の変更	S		JSchedule サービス環境設定	スケジュール保存期間（変更前⇒変更後）
31	JSchedule サービス環境の設定 投入成功通知の変更	S		JSchedule サービス環境設定	投入成功通知（変更前⇒変更後）
32	JSchedule サービス環境の設定 投入失敗通知の変更	S		JSchedule サービス環境設定	投入失敗通知（変更前⇒変更後）
33	JSchedule サービス環境の設定 積み残しジョブ通知タイミングの変更（サービス起動時）	S		JSchedule サービス環境設定	サービス起動時に通知（変更前⇒変更後）
34	JSchedule サービス環境の設定 積み残しジョブ通知タイミングの変更（指定時刻）	S		JSchedule サービス環境設定	指定時刻に通知（変更前⇒変更後）
35	JSchedule サービス環境の設定 積み残しジョブ通知指定時刻の変更	S		JSchedule サービス環境設定	通知指定時刻（変更前⇒変更後）
36	負荷分散方式の設定 負荷分散方式の変更	L		負荷分散方式設定	負荷分散方式（変更前⇒変更後）



No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
37	負荷分散方式の設定 パフォーマンスデータ採取間隔の変更	L		負荷分散方式設定	パフォーマンスデータ取得間隔 (変更前⇒変更後)
38	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログ出力モードの変更	L		操作ログ環境設定	操作ログ出力 (変更前⇒変更後) しないからするに変更した場合は、現在の設定内容が出力される
39	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログファイル切り替えモードの変更	L		操作ログ環境設定	操作ログファイル切替タイミング (変更前⇒変更後)
40	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログファイル最大サイズの変更	L		操作ログ環境設定	操作ログファイル最大サイズ (変更前⇒変更後)
41	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログファイル切り替え時刻の変更	L		操作ログ環境設定	操作ログファイル切替時刻 (変更前⇒変更後)
42	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログファイル保存先ディレクトリの変更	L		操作ログ環境設定	操作ログファイル作成ディレクトリ (変更前⇒変更後)
43	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログファイル書き込みリトライ間隔の変更	L		操作ログ環境設定	操作ログ書き込みリトライ間隔 (変更前⇒変更後)
44	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) ログファイル書き込みリトライ回数の変更	L		操作ログ環境設定	操作ログ書き込みリトライ回数 (変更前⇒変更後)
45	操作ログ環境の設定 (コマンド、JEnv) サービスオプションの変更	L		操作ログ環境設定	操作ログサービスオプション (変更前⇒変更後)
46	JMSS セキュリティの設定 (セキュリティ設定)	L		セキュリティ設定権限設定	対象ユーザ名
47	JMSS セキュリティの設定解除 (セキュリティ設定)	L		セキュリティ設定権限解除	対象ユーザ名
48	JMSS セキュリティの設定 (他ユーザ監視)	L		他ユーザ監視権限設定	対象ユーザ名
49	JMSS セキュリティの設定解除 (他ユーザ監視)	L		他ユーザ監視権限解除	対象ユーザ名
50	JMSS セキュリティの設定 (メニュー作成/更新)	L		メニュー作成/更新権限設定	対象ユーザ名
51	JMSS セキュリティの設定解除 (メニュー作成/更新)	L		メニュー作成/更新権限解除	対象ユーザ名

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
52	JMSS セキュリティの設定（スケジュール使用）	L		スケジュール使用権限設定	対象ユーザ名
53	JMSS セキュリティの設定解除（スケジュール使用）	L		スケジュール使用権限解除	対象ユーザ名
54	JMSS セキュリティの設定（JLook 業務投入）	L		JLook 業務投入権限設定	対象ユーザ名
55	JMSS セキュリティの設定解除（JLook 業務投入）	L		JLook 業務投入権限解除	対象ユーザ名
56	JMSS セキュリティの設定（JMSS 利用）	L		JMSS 利用権限設定	対象ユーザ名
57	JMSS セキュリティの設定解除（JMSS 利用）	L		JMSS 利用権限解除	対象ユーザ名

#### 4.5 コマンドを使用して行う操作

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	JCTLSEX コマンドによるログファイルの切り替え	L		操作ログ切替要求	要求ステータス

#### 4.6 サービス開始、停止

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	JLook サービスを開始したとき	L		JLook サービス開始	
2	JLook サービスを停止したとき	L		JLook サービス停止	
3	JSchedule サービスを開始したとき	S		JSchedule サービス開始	
4	JSchedule サービスを停止したとき	S		JSchedule サービス停止	
5	EventManager サービスを開始したとき	E		EventManager サービス開始	
6	EventManager サービスを停止したとき	E		EventManager サービス開始	

## 4.7 EventManager の操作

No	操作	識別子	ログの内容		
			操作対象	操作内容	オプション
1	定義ファイルの登録	E	定義ファイル	定義ファイルの登録	
2	定義ファイルの実行	E	定義ファイル	定義ファイルの実行	
3	定義ファイルの途中から実行	E	定義ファイル	定義ファイルの途中から実行	
4	定義ファイルの停止	E	定義ファイル	定義ファイルの停止	
5	定義ファイルの削除	E	定義ファイル	定義ファイルの削除	
6	定義ファイル名変更	E	定義ファイル	定義ファイル名変更	変更後の定義ファイル名(ファイル名)
7	定義ファイル名変更(編集)	E	定義ファイル	定義ファイル名変更(編集)	
8	定義ファイルの状態変更(停止)	E	定義ファイル	定義ファイルの状態変更(停止)	
9	強制遷移	E	定義ファイル 論理線	強制遷移	強制遷移されたボックス(ボックス名) 次のボックス(ボックス名)
10	即時実行	E	定義ファイル アクションボックス	即時実行	即時実行されたアクションボックス(ボックス名)
11	定義ファイル実行(コマンド)	E	定義ファイル アクションボックス	定義ファイルの実行(コマンド)	
12	定義ファイルの途中からの実行(コマンド)	E	定義ファイル	定義ファイルの途中からの実行(コマンド)	
13	定義ファイルの停止(コマンド)	E	定義ファイル	定義ファイルの停止(コマンド)	
14	イベント検出	E	定義ファイル イベントボックス	イベント検出	イベントボックス名
15	アクション実行	E	定義ファイル アクションボックス	アクション実行	アクションボックス名

## 付録 1 コマンドリファレンス

### 使用方法

JCtlSox・・・操作ログに関する環境設定を表示/設定します。

構文 JCtlSox [要求パラメータ種別] | [環境情報名 設定値]

パラメータ

要求パラメータ種別

ログ出力の有無を切り替えます。

on ログ出力する

off ログ出力しない

renew ログファイルを切り替える

look 操作ログ(JLook)

schedule 操作ログ(JSchedule)

all 全ての操作ログ

環境情報名 設定値

環境情報名と設定値を以下の形式で指定します。

省略時は全環境情報名を表示します。

**全ての設定値は、サービス再起動後に有効になります。**

mode 設定値

ログファイルの切り替えモードを指定します。

day 日付のみで切り替える

size ログファイルサイズのみで切り替える

daysize 日付とサイズで切り替える

ctime hh:mm

ログファイルの切り替え時刻を指定します。

size 設定値

ログファイルの最大サイズを指定します

<値形式>N(メガバイト)

<値範囲>1～100

dir "UNC パス名"

ログファイル保存先パス名を指定します。

UNC名で指定

interval 設定値

ログファイル書き込み失敗時のリトライ間隔を指定します。

<値形式>N(ミリ秒)

<値範囲>100～1000

retry 設定値

ログファイル書き込み失敗時のリトライ回数を指定します。

<値形式>N(回)

<値範囲>1～100

#### option 設定値

リトライオーバー時のサービスの動作を指定します。

stop サービスを停止する

none 何もしない

stop を指定した場合、ログファイルの書き込みエラーが指定したリトライ回数まで繰り返された場合、

JLook サービスおよびそれに依存するサービスが停止する

終了コード      正常終了    0

異常終了      「エラーコード一覧」参照

セキュリティ      参照時      JMSS 利用権

変更時      セキュリティ設定権

#### エラーコード一覧

No.	分類	コード(10 進)	コード(16 進)	概要
1	Success	0	00000000	正常
2	Error	50	00000032	パラメータの指定に誤りがあります
3		51	00000033	JMSS サーバに接続できません
4		53	00000035	JMSS がインストールされていません
5		62	0000003e	指定のディレクトリ/ファイルがありません
6		65	00000041	セキュリティ情報の取得に失敗しました
7		66	00000042	必要な JMSS セキュリティがありません
8		70	00000046	処理が完了しませんでした

JSoxCnv ・ ・ 操作ログを XML 形式ファイルに変換します。

構文 JSoxCnv [/M:出力モード] [/O:出力先ディレクトリ] 操作ログファイル名  
パラメータ

/M:出力モード

XML 形式ファイルの出力モードを設定する

A 既存ファイルの最後に追記する

O 新しいファイルを作成する(規定値)

/O:出力先ディレクトリ

XML 形式ファイルを出力するディレクトリを設定する

省略時は CSV 形式操作ログファイルと同じディレクトリに出力

操作ログファイル名

CSV 形式の操作ログファイル名をフルパスで指定する